

# 官報

## 號外

昭和十四年一月二十五日

### ○第七十四回帝國議會貴族院議事速記第四號

昭和十四年一月二十四日(火曜日)午前十時  
十一分開議

議事日程 第四號

昭和十四年一月二十四日

午前十時開議

第一 國務大臣ノ演說ニ關スル件(第三日)

第二 兵役法中改正法律案(政府提出)

第三 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第四 宗教團體法案(政府提出)

第五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第六 寺院等ニ無償ニテ貸付シアル國有財産ノ處分ニ關スル法律案(政府提出)

第七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

○議長(伯爵松平賴壽君) 報告ヲ致サセマ

(丸龜書記官朗讀)

昨二十三日分科會ニ於テ當選シタル正副主査ノ氏名左ノ如シ

請願委員會

第一分科

主査 子爵保科 正昭君  
副主査 男爵足立 豐君

第二分科

主査 子爵加藤 泰通君  
副主査 男爵本多 政樹君

第三分科

主査 子爵秋元 春朝君  
副主査 男爵久保田敬一君

第四分科

主査 男爵松平外與麿君  
副主査 子爵谷 儀一君

第五分科

主査 子爵綾小路 護君  
副主査 男爵奧田 剛郎君

第六分科

主査 松本 學君  
副主査 男爵原田 熊雄君

第七分科

主査 子爵立花 種忠君  
副主査 男爵前田 勇君

第八分科

主査 子爵秋月 種英君  
副主査 男爵三須 精一君

第九分科

主査 子爵立見 豐丸君  
副主査 男爵沖 貞男君

第十分科

同日委員長ヨリ請願委員子爵豐岡圭資君ヲ

第三分科擔當委員ニ選定シタル旨ノ報告書

ヲ提出セリ

同日内閣總理大臣ヨリ左ノ通第七十四回帝

國議會政府委員仰付ラレタル旨ノ通牒ヲ受

領セリ

### 政府委員

企畫院次長 武部 六藏君

本日第四部ニ於テ請願委員野村德七君ノ補

闕選舉ヲ行ヒシニ其ノ結果村田省藏君當選

セリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 是ヨリ本日ノ會

議ヲ開キマス、御諮リヲ致シマス、議事日

程ヲ變更シテ日程第一ヲ最後ニ廻シ、日程

第二以下順次議題ト爲スコトニ御異議ハゴ

ザイマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認

メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第二、兵役

法中改正法律案、政府提出 第一讀會、板

垣陸軍大臣

(左ノ提出文及法律案ハ朗讀ヲ經

サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下

之ニ做フ)

兵役法中改正法律案

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

昭和十四年一月十八日

内閣總理大臣 男爵平沼騏一郎

海軍大臣 米内 光政

陸軍大臣 板垣征四郎

兵役法中改正法律案

第六條中「四年」ヲ「五年」ニ改ム

第七條中「五年」ヲ「七年」ニ改ム

第八條中「十二年四月」ヲ「十七年四月」ニ

改ム

第十條 削除

第十二條中「六十日」ノ下ニ「(海軍現役兵

ニシテ師範學校ヲ卒業シ小學校ノ教職ニ

就クノ資格ヲ有スル者ニ在リテハ一年六

十日)ヲ加フ

第十五條 削除

第十七條第三項中「前二項」ヲ「前項」ニ改

メ同條第二項ヲ削ル

第十八條中「第九條第一項及第十條」ヲ

「及第九條第一項」ニ改ム

第三十三條 現役ニ適スル者ハ勅令ノ定

ムル所ニ依リ體格等位ノ優劣ニ從ヒ徵

集豫定者及其ノ徵集順序ヲ定メ各徵募

區ノ配賦人員ニ應ジ現役兵、第一補充

明治二十五年三月三十一日  
第三種郵便物認可

戰時又ハ事變ニ際シ特ニ必要アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ徵集ヲ延期セザルコトヲ得

第四十五條第二項中「第三項」ヲ「第二項」ニ改ム

第四十九條 左ニ掲グル者徵集豫定者ト爲リタル場合ニ於ケル其ノ徵集順序ハ

第三十三條第五項ノ規定ニ依ル者ノ下位トシ其ノ他ノ者ノ上位トス

一 第四十六條第二項ノ規定ニ該當スル者

二 第四十七條ノ規定ニ該當スル者

三 第七十四條ノ規定ニ依リテ罰シ刑ニ處セラレタル者

四 第七十六條ノ規定ニ依リテ罰シ刑ニ處セラレタル者

第五十三條第一項中「第四十一條第三項若ハ第四項」ヲ「第四十一條第二項若ハ第三項」ニ、第六十六條第一項又ハ第六十七條「又ハ第六十六條第一項」ニ、同條第二項中「第十七條第一項又ハ第二項」ヲ「第十七條第一項」ニ改ム

第五十五條第二項中「服役第一年度」ヲ削ル

第五十六條第三項ヲ左ノ如ク定ム

前項ニ規定スル召集日數ハ特別ノ必要アル場合ニ限り五十日以内之ヲ延長スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第一項ニ規定スル召集回數ヲ一回宛減ズルモノトス

第五十七條第一項中「第一補充兵」ヲ「補充兵」ニ改ム

第六十二條第四項中「認ムル者ナルトキハ」ノ下ニ召集期日若ハ召集年次ヲ變更シ又ハ「ヲ加フ

第六十七條 削除

第七十三條中「帝國外ノ地ニ在リテ帝國臣民ノ爲ニ設置シタル學校」ヲ「帝國外ノ地ニ在ル學校」ニ改ム

本法ハ昭和十四年三月三十一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十條、第十二條、第十五條、第十七條、第十八條、第三十八條、第四十一條、第四十五條及第六十七條ノ改正規定並ニ第五十三條ノ改正

附則

昭和十四年三月三十一日ニ於テ現ニ第九條ノ規定ニ基キ其ノ服役ノ期間ヲ延長セラレ居ル者ノ服役ハ第八條ノ改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ル

昭和十四年十二月一日ニ於テ現ニ短期現役兵トシテ徵集セラレ未ダ入營セザル者ノ服役ハ仍從前ノ例ニ依ル

昭和十四年十二月一日ニ於テ現ニ中學校又ハ從前ノ第四十一條ノ規定ニ依リ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校ニ在學スル者ニ對スル徵集ノ延期ハ其ノ者ガ現ニ在學スル學校ニ引續キ在學スル間ハ第四十一條ノ改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ル

（國務大臣板垣征四郎君演壇ニ登ル）

○國務大臣（板垣征四郎君） 兵役法中改正法律案提出ノ理由ニ付テ説明致シマス、第一ハ服役、召集、在學徵集延期等直接軍備充實ニ關係アル改正デアリマシテ、海軍關係ノ事項モゴザイマスガ、併セテ私ヨリ申上ゲマス、御承知ノ如ク現下内外ノ情勢ノ變化ハ、帝國軍備ノ迅速且飛躍的充實ヲ必須トスルニ至リマシテ、戰時所要兵力保持ノ爲ニハ、或程度服役期間ノ延長ヲ絕對ニ必要トスルニ至リマシテ、即チ陸軍ニ於テハ補充兵役ヲ五年、海軍ニ於テハ豫備役ヲ一年、後備兵役ヲ二年延長致サネバナラスコトナリマシタ次第デゴザイマス、又就中幹部ノ新銳化並ニ在郷軍人ノ能力向

上ニ付キマシテハ、今次事變ニ於テ特ニ其ノ必要ヲ痛感セラレタ所デアリマシテ、之ガ爲ニ在學徵集延期制度及召集制度ニ必要ノ改正ヲ加ヘナケレバナラスノデアリマス、尙現役兵徵集人員モ激増ヲ見ルコトナリマシタル結果、入營兵ノ體位低下ヲ極力阻止スルノ必要ヲ生ジ、之ガ爲ニ兵員徵集法ニ付キマシテモ此ノ目的ニ副フ如ク所要ノ改正ヲ致シタイト存ジマス、第二ハ短期現役兵制度ノ廢止デアリマス、現在ノ制度ニ於キマシテハ、師範學校ヲ卒業シタ者ハ五箇月ノ現役ノ後ハ直チニ第一國民兵役ニ服スルコトナリマシテ居リマスガ、近時軍ノ裝備ハ著シク機械化セラレ、其ノ戰鬪法モ頗ル複雑ニナリマシタノデ、僅カ五箇月ノ期間デハ到底軍隊教育ヲ十分ニ施スコトガ出來ナイバカリデナク、教員タル者ニ十分ニ軍隊教育ヲ體得セシメ、現役服役後ニ於テ之ヲ兒童、生徒ノ教育ニ及シ、國民ノ必任義務ヲ完全ニ遂行セシメ、遺憾ナク皇運扶翼ノ任ヲ盡サシメマス爲ニモ、現在ノ制度デハ適當デナイト存ズルノデアリマス、而モ一朝有事ノ際ニ於キマシテハ、小學校教員ガ一般國民ト同様ニ直チニ國防ノ第一線ニ立ツコトハ、國民教育上極メテ肝要デアルト思料致シマスノデ、本制度ハ之ヲ廢止致サムトスル次第デゴザイマス、本制度ノ廢止ニ依リマシテ一層國民皆兵ノ實ヲ擧ゲ得マスコトハ、今更申ス迄モナイコトト存ジマスガ、尙本制度ノ廢止ニ依リ國民教育ニ支障ヲ及サナイコトニ付キマシテハ、十分ナル確信ヲ有シテ居ル次第デゴザイマス、第三ハ日滿兩國一體ノ關係ヲ助長スル爲メノ改正デアリマス、即チ滿洲國ノ設立スル學校中、日滿兩國發展ノ爲テ特殊大ナル關係ヲ有スルモノニ對シマシテハ、帝國ト致シマシテ其ノ充實發展ノ爲積極的援助ヲ爲スト共ニ、此ニ在學スル帝國臣民ニ對シマシテハ、其ノ修學ニ關シ帝國ノ設立

スル學校ニ於ケルト同様ノ便宜ヲ與フルノ必要ガアルモノト信ズル次第デゴザイマス、今同本法律案ヲ提出スルニ至リマシタ理由ハ以上ノ通デゴザイマス、何卒御審議ノ上速カニ御協賛アラムコトヲ希望致シマス

○議長（伯爵松平賴壽君） 別ニ御質疑モナケレバ日程第三、特別委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

○子爵戸澤正巳君 只今、議題トナリマシタ特別委員ノ選舉ハ、本會期中ヲ通ジ、特別ノ場合ヲ除キ其ノ特別委員ノ數ヲ九名トシ、其ノ指名ヲ議長ニ一任ノ動議ヲ提出致シマス、而シテ只今上程セラレマシタ兵役法中改正法律案ハ重要ナル法案デアリマス、其ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵西大路吉光君 賛成

○議長（伯爵松平賴壽君） 戸澤子爵ノ動議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ願ヒマス

（起立者多數）

○議長（伯爵松平賴壽君） 過半数ト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

（丸龜書記官朗讀）

兵役法中改正法律案特別委員

伯爵鷹司 信輔君 侯爵徳川 義親君

伯爵溝口 直亮君 子爵野村 益三君

子爵谷 儀一君 子爵伊東二郎丸君

織田 萬君 中川 健藏君

三井清一郎君 男爵淺邊 修二君

男爵松平外郎君 男爵渡邊 修二君

小野寺長治郎君 松本 學君

石川 三郎君 辻 兵吉君

○議長（伯爵松平賴壽君） 日程第四、宗教團體法案、日程第六、寺院等ニ無償ニテ貸付シタル國有財産ノ處分ニ關スル法律案、政府提出、第一讀會、是等ノ二案ヲ一括致

スル學校ニ於ケルト同様ノ便宜ヲ與フルノ必要ガアルモノト信ズル次第デゴザイマス、今同本法律案ヲ提出スルニ至リマシタ理由ハ以上ノ通デゴザイマス、何卒御審議ノ上速カニ御協賛アラムコトヲ希望致シマス

○議長（伯爵松平賴壽君） 別ニ御質疑モナケレバ日程第三、特別委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

シマシテ議題ト致シマスコトニ御異議ハゴ  
ザイマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認  
メマス、荒木文部大臣

宗教團體法案

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス  
昭和十四年一月十八日

内閣總理大臣 男爵平沼騏一郎

文部大臣 男爵荒木 貞夫

内務大臣 侯爵木戸 幸一

大藏大臣 石渡莊太郎

宗教團體法案

宗教團體法

第一條 本法ニ於テ宗教團體トハ神道教  
派、佛教宗派及基督教其ノ他ノ宗教ノ  
教團(以下單ニ教派、宗派、教團ト稱  
ス)並ニ寺院及教會ヲ謂フ

第二條 教派、宗派及教團並ニ教會ハ之  
ヲ法人ト爲スコトヲ得

第三條 教派、宗派又ハ教團ヲ設立セン  
トスルトキハ設立者ニ於テ教規、宗制  
又ハ教團規則ヲ具シ法人タラントスル  
モノニ在リテハ其ノ旨ヲ明ニシ主務大  
臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 名稱  
二 事務所ノ所在地  
三 教義ノ大要  
四 教義ノ宣布及儀式ノ執行ニ關スル  
事項

五 管長、教團統理者其ノ他ノ機關ノ  
組織、任免及職務權限ニ關スル事項  
六 寺院、教會其ノ他ノ所屬團體ニ關  
スル事項

七 任職、教會主管者其ノ代務者及教  
師ノ資格、名稱及任免其ノ他ノ進退  
並ニ僧侶ニ關スル事項  
八 檀徒、教徒又ハ信徒ニ關スル事項  
九 財産管理其ノ他ノ財務ニ關スル事項  
十 公益事業ニ關スル事項

教規、宗制若ハ教團規則ヲ變更セント  
スルトキ又ハ法人ニ非ザル教派、宗派  
若ハ教團ガ法人タラントスルトキハ主  
務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第四條 教派及宗派ニハ管長ヲ、教團ニ  
ハ教團統理者ヲ置クベシ

管長又ハ教團統理者ハ教派、宗派又ハ  
教團ヲ統理シ之ヲ代表ス

管長又ハ教團統理者缺ケタルトキ又ハ  
久シキニ互リ職務ヲ行フコト能ハザル  
トキハ代務者ヲ置キ其ノ職務ヲ行ハシ  
ムベシ

管長、教團統理者又ハ其ノ代務者就任  
セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受  
クルコトヲ要ス

第五條 教派、宗派又ハ教團ハ主務大臣  
ノ認可ヲ受ケ合併又ハ解散ヲ爲スコト  
ヲ得

教派、宗派又ハ教團ハ設立認可ノ取消  
ニ因リテ解散ス

法人タル教派、宗派又ハ教團ハ破産ニ  
因リテ解散ス

前項ノ場合ニ於テ教派、宗派又ハ教團  
ハ清算ノ目的ノ範圍外ニ於テハ法人ニ  
非ザル教派、宗派又ハ教團トシテ設立  
ノ認可ヲ受ケ存続スルモノト看做ス

主務大臣ハ必要アルトキハ前項ノ教派、  
宗派又ハ教團ニ對シ設立ノ認可ヲ取消  
スコトヲ得

經、法人タラントスル教會ニ在リテハ  
其ノ旨ヲ明ニシ地方長官ノ認可ヲ受ク  
ルコトヲ要ス

寺院規則及教會規則ニハ左ノ事項ヲ記  
載スベシ

一 名稱  
二 所在地  
三 本尊、奉齋主神、安置佛等ノ稱  
號

四 所屬教派、宗派又ハ教團ノ名稱  
五 教派、宗派又ハ教團ニ屬セザル教  
會ニ在リテハ前號ニ規定スル事項ニ  
代ヘ其ノ奉ズル宗教ノ名稱及教義ノ  
大要並ニ教師ノ資格、名稱及任免其  
ノ他ノ進退ニ關スル事項

六 教義ノ宣布及儀式ノ執行ニ關スル  
事項

七 任職、教會主管者其ノ他ノ機關ニ  
關スル事項  
八 檀徒、教徒又ハ信徒及其ノ總代ニ  
關スル事項

九 本末寺及法類ニ關スル事項  
十 財産管理其ノ他ノ財務ニ關スル事  
項

十一 公益事業ニ關スル事項

寺院規則若ハ教會規則ヲ變更セントス  
ルトキ又ハ法人ニ非ザル教會ガ法人タ  
ラントスルトキハ檀徒、教徒及信徒ノ  
總代ノ同意ヲ得前項第五號ノ教會ヲ除  
クノ外豫メ管長又ハ教團統理者ノ承認  
ヲ經、地方長官ノ認可ヲ受クルコトヲ  
要ス

第七條 寺院ニハ任職ヲ、教會ニハ教會  
主管者ヲ置クベシ

任職又ハ教會主管者ハ寺院又ハ教會ヲ  
主管シ之ヲ代表ス

シムベシ

第八條 寺院及教會ニハ檀徒、教徒及信  
徒ノ總代(以下單ニ總代ト稱ス)三人以  
上ヲ置クベシ

總代ハ寺院又ハ教會ノ經營ニ關シ任職  
又ハ教會主管者ヲ扶ク

總代ノ選任及解任ハ任職又ハ教會主管  
者ヨリ之ヲ市町村長(市制第六條及第  
八十二條第三項ノ市ニ在リテハ區長、  
町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ  
準ズベキ者)ニ届出ヅルコトヲ要ス

第九條 寺院又ハ法人タル教會ハ命令ノ  
定ムル所ニ依リ實物其ノ他不動産以外  
ノ重要ナル財産ニ付地方長官ニ於テ保  
管スル寺院財産臺帳又ハ教會財産臺帳  
ニ登錄ヲ受クルコトヲ要ス

寺院財産臺帳又ハ教會財産臺帳ヲ閱覽  
シ又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ受ケ  
ントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之  
ヲ請求スルコトヲ得

第十條 寺院又ハ法人タル教會左ニ掲グル  
行爲ヲ爲サントスルトキハ總代ノ同意  
ヲ得第六條第二項第五號ノ教會ヲ除ク  
ノ外管長又ハ教團統理者ノ意見書ヲ添  
へ、地方長官ノ認可ヲ受クルコトヲ要  
ス

一 不動産又ハ寺院財産臺帳若ハ教會  
財産臺帳ニ登錄セラレタル財産ヲ處  
分シ又ハ擔保ニ供スルコト

二 借財又ハ保證ヲ爲スコト  
前項ノ場合ニ於テ總代ノ同意ヲ得ルコ  
ト能ハザルトキハ任職又ハ教會主管者  
ハ其ノ事由ヲ具シ地方長官ノ承認ヲ求  
ムルコトヲ得

第一項ニ規定スル事項ニ付地方長官ノ  
認可ヲ受ケズシテ爲シタル行爲ハ之ヲ  
無効トス

定ニ依リ地方長官ノ承認ヲ得タル場合ヲ除クノ外之ヲ無効トス  
前二項ノ場合ニ於テ相手方ガ善意無過失ナルトキハ其ノ行爲ヲ爲シタル住職又ハ教會主管者ハ相手方ノ選擇ニ從ヒ之ニ對シテ履行又ハ損害賠償ノ責ニ任ズ

第十一條 寺院又ハ教會ハ第六條第二項第五號ノ教會ヲ除クノ外豫メ管長又ハ教團統理者ノ承認ヲ經、地方長官ノ認可ヲ受ケテ合併又ハ解散ヲ爲スコトヲ得

寺院又ハ教會左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ地方長官ハ其ノ設立ノ認可ヲ取消スコトヲ得  
一 堂宇又ハ會堂ノ滅失後五年内ニ其ノ施設ヲ爲サザルトキ  
二 住職又ハ教會主管者及其ノ代務者ヲ缺クコト三年以上ニ及ブトキ

寺院又ハ教會ハ設立認可ノ取消ニ因リテ解散ス  
第十二條 寺院ノ境内地ノ管理、境内地ノ區域ノ變更及境内建物ノ管理並ニ教會ノ境内地ノ管理、境内地ノ區域ノ變更及境内建物ノ管理ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 法人タル宗教團體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス  
前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第十四條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外宗教團體ノ合併及解散ノ場合ニ於テ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 民法第四十三條、第四十四條、第五十條、第五十一條第一項、第五十四條、第五十七條及第七十三條乃至第七

八十三條並ニ民法施行法第二十四條、第二十六條及第二十七條ノ規定ハ法人タル宗教團體ニ、民法第四十一條及第四十二條ノ規定ハ寺院及法人タル教會ニ付之ヲ準用ス但シ民法第五十七條ノ規定ノ準用ニ依ル特別代理人ノ選任ハ

教規、宗制、教團規則、寺院規則又ハ教會規則ノ定ムル所ニ依ル  
第十六條 宗教團體又ハ教師ノ行フ宗教ノ教義ノ宣布若ハ儀式ノ執行又ハ宗教上ノ行事ガ安寧秩序ヲ妨ガ又ハ臣民タルノ義務ニ背クトキハ主務大臣ハ之ヲ制限シ若ハ禁止シ、二年内ノ期間ヲ限リ教師ノ業務ヲ停止シ又ハ宗教團體ノ設立ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第十七條 宗教團體又ハ其ノ機關ノ職ニ在ル者法令又ハ教規、宗制、教團規則、寺院規則若ハ教會規則ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スベキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ之ヲ取消シ、停止シ若ハ禁止シ又ハ機關ノ職ニ在ル者ノ改任ヲ命ズルコトヲ得

第十八條 主務大臣ハ宗教團體ニ對シ監督上必要ナル場合ニ於テハ報告ヲ徵シ又ハ實況ヲ調査スルコトヲ得  
第十九條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ規定スル其ノ權限ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第二十條 第五條第五項、第十一條第二項、第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル處分ニ對シ不服アル者ハ訴願ヲ爲スコトヲ得

第五條第五項、第十一條第二項又ハ第十六條ニ規定スル設立認可ノ取消處分ヲ違法ニシテ之ニ依リ權利ヲ毀損セラ

レタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得  
前項ノ規定ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ訴願ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十一條 宗教團體ニ於テ公衆禮拜ノ用ニ供スル建物又ハ其ノ敷地ニシテ命令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ經タルモノハ不動産ノ先取特權、抵當權若ハ質權ノ實行ノ爲ニスル場合又ハ破産ノ場合ヲ除クノ外其ノ登記後ニ原因ヲ生ジタル私法上ノ金錢債權ノ爲ニ之ヲ差押フルコトヲ得ズ寺院財產臺帳又ハ教會財產臺帳ニ登錄セラレタル寶物ニ付亦同ジ

第二十二條 宗教團體ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅ヲ課セズ  
寺院ノ境内地及教會ノ境内地ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ地租ヲ免除ス但シ有料借地ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ宗教團體ノ所得ニ對シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第二十三條 宗教團體ニ非ズシテ宗教ノ教義ノ宣布及儀式ノ執行ヲ爲ス結社(以下宗教結社ト稱ス)ヲ組織シタルトキハ代表者ニ於テ規則ヲ定メ十四日以内ニ地方長官ニ届出ヅルコトヲ要ス届出事項ニ變更ヲ生ジタルトキ亦同ジ  
宗教結社ノ規則ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 名稱  
二 事務所ノ所在地  
三 教義、儀式及行事ニ關スル事項  
四 奉齋主神、安置佛等ノ稱號  
五 組織ニ關スル事項  
六 財產管理其ノ他ノ財務ニ關スル事項  
七 代表者及布教者ノ資格及選定方法

第二十四條 宗教結社ノ代表者ハ其ノ結社ニ屬スル布教者ノ氏名及住所ヲ遲滞ナク地方長官ニ届出ヅルコトヲ要ス其ノ届出事項ニ變更ヲ生ジタルトキ亦同ジ

第二十五條 第十六條乃至第十八條及第二十條第一項ノ規定ハ宗教結社又ハ其ノ代表者若ハ布教者ニ付之ヲ準用ス  
第二十六條 教師又ハ布教者第十六條(前條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル制限、禁止又ハ業務ノ停止ニ違反シタルトキハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
宗教團體又ハ宗教結社ニ對シ第十

六條(前條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル制限又ハ禁止アリタル場合ニ於テ當該宗教團體又ハ宗教結社ノ代表者其ノ他ノ機關ノ職ニ在ル者、教師又ハ布教者ノ制限又ハ禁止アリタルコトヲ知リテ其ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同ジ  
第二十七條 宗教結社ノ代表者第二十三條ノ規定ニ依リ届出ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタルトキハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第二十八條 法人タル宗教團體ノ代表者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ二百圓以下ノ過料ニ處ス  
一 第十三條第一項又ハ第十五條ニ於テ準用スル民法第七十七條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲サザルトキ  
二 第十五條ニ於テ準用スル民法第五十一條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ財產目錄ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタルトキ  
三 第十五條ニ於テ準用スル民法第八十二條ノ規定ニ依リ裁判所ノ検査ヲ妨ガタルトキ  
四 第十五條ニ於テ準用スル民法第八

十一條ノ規定ニ依ル破産宣告ノ請求ヲ爲サザルトキ

五 第十五條ニ於テ準用スル民法第七十九條又ハ第八十一條ノ規定ニ依ル公告ヲ爲サズ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

宗教團體又ハ宗教結社ノ代表者第十八條(第二十五條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ、虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ調査ヲ妨ゲタルトキ及宗教結社ノ代表者第二十四條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同ジ  
非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二項ノ過料ニ付テ之ヲ準用ス

附則

第二十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條 明治六年太政官第二百四十九號布告、明治十年太政官第四十三號布告及明治十七年太政官第十九號布達ハ之ヲ廢止ス

第三十一條 本法施行ノ際現ニ存スル教派又ハ宗派ハ之ヲ本法ニ依リ設立ヲ認可セラレタル法人ニ非ザル教派又ハ宗派ト看做シ其ノ管長ハ之ヲ本法ニ依ル管長ト看做ス

前項ノ教派又ハ宗派ハ本法施行後一年內ニ教規又ハ宗制ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス其ノ認可アル迄從前ノ教規又ハ宗制寺法ヲ以テ教規又ハ宗制ニ代用ス

第三十二條 本法施行ノ際現ニ寺院明細帳ニ登錄セラルル寺院ハ之ヲ本法ニ依リ設立ヲ認可セラレタル寺院ト看做シ本法施行ノ際現ニ存スル祠宇ハ之ヲ本法ニ依リ設立ヲ認可セラレタル法人タル教會ト看做ス

前項ノ寺院又ハ教會ハ本法施行後二年內ニ寺院規則又ハ教會規則ヲ定メ總代ノ同意ヲ得管長ノ承認ヲ經テ地方官ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス其ノ寺院規則又ハ教會規則ノ認可アル迄ノ寺院又ハ教會ニ關シテハ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

地方官前項ノ規定ニ依リ寺院規則又ハ教會規則ヲ認可シタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記所ニ登記ノ囑託ヲ爲スベシ

第三十三條 本法施行前教會所、堂宇、會堂、説教所又ハ講義所ノ類トシテ設立ノ許可ヲ受ケタルモノニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ之ヲ本法ニ依リ設立ヲ認可セラレタル法人ニ非ザル教會ト看做ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ教會ニ付テ之ヲ準用ス

第三十四條 第三十二條第一項又ハ前條第一項ノ寺院又ハ教會ヲ主管シ之ヲ代表スル者ニシテ本法施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ルモノハ之ヲ本法ニ依ル住職又ハ教會主管者ト看做シ其ノ檀徒總代又ハ信徒總代ニシテ本法施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ルモノハ之ヲ本法ニ依ル總代ト看做ス

第三十五條 本法施行ノ際現ニ佛堂明細帳ニ登錄セラルル佛堂ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法施行後二年內ニ寺院ニ屬シ又ハ寺院若ハ教會ト爲ルコトヲ得其ノ寺院ニ屬セズ又ハ寺院若ハ教會ト爲ラザルモノノ處分ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ佛堂ニシテ寺院ニ屬セズ又ハ寺院若ハ教會ト爲ラザルモノニ付テハ本法施行後二年ヲ限リ仍從前ノ例ニ依ル

第三十六條 本法施行ノ際現ニ存スル宗教結社ニ付テハ代表者ニ於テ宗教結社

ノ規則ヲ定メ本法施行後十四日內ニ地方官ニ届出ヅルコトヲ要ス  
前項ノ宗教結社ノ代表者前項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタルトキハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第三十七條 登錄税法第二條及第三條ノ二中「寺院、祠宇、佛堂」ヲ「法人タル宗教團體」ニ改ム  
同法第十九條但書中「第八號乃至第九號ノ四」ヲ「第一號ノ二、第八號乃至第九號ノ四」ニ改メ同條第二號ヲ左ノ如ク改ム  
二 神社ノ敷地ニ關スル登記  
二 寺院ノ境内地若ハ教會ノ構内地又ハ寺院若ハ教會ノ用ニ供スル建物ニ關スル登記  
二 墳墓地ニ關スル登記  
第三十五條第一項ノ佛堂ニシテ寺院ニ屬セズ又ハ寺院若ハ教會ト爲ラザルモノノ不動産ニ關スル登記ニ付テハ前二項ノ改正規定ニ拘ラズ本法施行後二年ヲ限リ仍從前ノ例ニ依ル

勅令ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス  
昭和十四年一月二十一日  
内閣總理大臣 男爵平沼騏一郎  
大藏大臣 石渡莊太郎

右  
寺院等ニ無償ニテ貸付シタル國有財産ノ處分ニ關スル法律案

第一條 本法施行ノ際現ニ國有財産法ニ依リ寺院又ハ佛堂ニ無償ニテ貸付シタル國有財産ハ寺院ニ在リテハ本法施行後二年內ニ、佛堂ニ在リテハ宗教團體法第三十五條ノ規定ニ依リ其ノ佛堂ガ寺院ニ屬シ又ハ寺院若ハ法人タル教會ト爲リタル場合ニ本法施行後三年內ニ

申請シタルトキハ寺院境内地處分審査會ニ諮問シ主務大臣之ヲ當該寺院又ハ教會ニ讓與ス  
前項ノ規定ニ依リ讓與スベキ國有財産ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
寺院境内地處分審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 前條ノ讓與ニ關スル處分ニ對シ不服アル者ハ訴願ヲ爲スコトヲ得  
前項ノ訴願ノ裁決ヲ爲ス場合ニ於テハ寺院境内地處分審査會ニ諮問スベシ

第三條 第一條ノ規定ニ依ル國有財産ニシテ同條ノ規定ニ依ル讓與ヲ爲サザルモノハ勅令ヲ以テ特ニ國有トシテ存置スルノ必要アリト定ムルモノヲ除ク外第一條ノ申請ヲ爲シタルモノニ付テハ讓與ヲ爲サザルコトノ決定通知ヲ爲シタル日ヨリ五年內ニ、其ノ他ノモノニ付テハ寺院ニ在リテハ本法施行後五年內ニ、佛堂ニ在リテハ宗教團體法第三十五條ノ規定ニ依リ其ノ佛堂ガ寺院ニ屬シ又ハ寺院若ハ法人タル教會ト爲リタル場合ニ本法施行後六年內ニ申請シタルトキハ時價ノ半額ヲ以テ隨意契約ニ依リ之ヲ當該寺院又ハ教會ニ賣拂フコトヲ得

前條ノ規定ニ依リ訴願ヲ爲シタル者ハ前項ノ期間満了後ト雖モ其ノ裁決書ヲ受領シタル日ヨリ尙二年間前項ノ賣拂ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第四條 前條ノ規定ニ依ル賣拂代金ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ五年內ノ年賦延納ヲ認ムルコトヲ得但シ國債ヲ以テ擔保ヲ供シタルトキハ十年內ノ年賦延納ヲ認ムルコトヲ妨ゲズ

第五條 第一條ノ規定ニ依ル國有財産ニシテ同條ノ規定ニ依ル讓與ヲ爲サザルコトニ決定シタルモノハ國有財産法第二十四條ノ規定ヲ適用セズ但シ第三條

ノ規定ニ依リ賣拂ノ申請ヲ爲シタル國有財産ニ付テハ賣拂契約成立ノ日又ハ賣拂ヲ爲サザルコトノ決定通知ヲ爲シタル日迄命令ノ定ムル所ニ依リ無償ニテ之ヲ當該寺院又ハ教會ニ貸付シタルモノト看做ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣男爵荒木貞夫君演壇ニ登ル〕  
○國務大臣(男爵荒木貞夫君) 宗教團體法案提出ノ理由並ニ其ノ内容ノ概略ニ付テ御說明申上テタイト存ジマス、宗教ガ國民精神ノ振作、國民思想ノ啓導ニ重大ナル關係ヲ有スルコトハ言フ俟タヌ所デアリマス、ガ、特ニ現下非常時局ニ際シマシテハ、人心ノ感化、社會風教ノ上ニ甚大ナル影響ヲ齎ス宗教ノ健全ナル發達コソ肝要デアルト申サネバナラヌノデアリマス、此ノ見地ニ於テ宗教團體ノ發達並ニ其ノ教化機能ノ増進ヲ圖ラムガ爲ニ、宗教法規ノ整備ヲ致スコトハ蓋シ刻下急務ノ一ト信ズルノデアリマス、今宗教團體ニ關スル現行ノ法規ヲ看マスルニ、概ネ明治初年ノ法制未ダ整ハザル間ニ定メラレタル布告布達等、雜多ナルモノヨリ成ツテ居ルノデゴザイマシテ、斷片的ニシテ、其ノ適用上往々ニシテ疑義ヲ生ジ易ク、行政上ノ不便ハ申スニ及バズ、延イテハ宗教團體ノ發達ト其ノ教化活動ヲ阻害スルモノガ尠カラザルモノガアルノデアリマス、從テ茲ニ宗教行政ノ根本ヲ完備シ、煩雜ナル在來ノ規定ヲ整頓シ、宗教團體ニ對スル國家ノ保護監督其ノ適正ヲ得ルト共ニ、他面宗教教化活動ニ便益多カラシムルハ、最モ必要ナルコトト思考致スノデアリマス、今本案内容ノ重ナルモノヲ申上ダマスレバ、神佛敎宗派ニ關スル根本法規ノ不備ヲ補ヒ、又從來法規上根據アリマセヌ基礎ヲ他ノ敎團ノ基礎ヲ明カニ規定シ、更ニ

是等ノ中法人タラムトスルモノニ對シテハ、新々ニ其ノ途ヲ開キ、活社會ニ於テ各種ノ法律的、經濟的活動ヲ營ムニ於テノ不便ヲ除去シ、以テ其ノ旺盛ナル教化活動ヲ促シ、各敎宗派敎團ニ對シテハ、ソレレノ歴史沿革傳統ニ依ル特殊性ヲ尊重致スコトニ付十分ニ留意シ、其ノ内部ノコトニ關シテハ、ソレレノ自治ニ委ヌルコトヲ以テ原則ト致シタルデアリマス、更ニ寺院及教會ニ關シマシテモ、基礎的の法規ヲ制定スルト共ニ、其ノ財産管理ノ公正ト堅實トヲ期セムガ爲ニ、是等ニ關スル規定ヲ整へ、又宗教團體ニ對シ一方免稅ノ特典或ハ差押禁止ノ範圍擴張等ヲ考慮シ、行政上萬一ノ不當處分アル場合ニ於テハ、訴訟、行政訴訟ノ途ヲ開イテ其ノ救済ヲ講ジ、又他方法規ノ不備ヨリシテ、從來屢々、忌ハシキ事象ノ發生ヲ見ルニ至リマシタコトニ鑑ミマシテ、今後ハ事前ニ於テ必要ナル措置ヲ爲シ得ルヤウニ致シマシテ、以テ宗教團體ノ健全ナル發達ニ寄與セシメムト致シタルデアリマス、特ニ新興宗教團體ニ對シマシテハ、從來專ラ警察取締ニノミ

ニ對シマシテハ、從來專ラ警察取締ニノミ委セテ參ツクノデアリマスガ、現下ノ思想界ノ實情ニ鑑ミマシテ、之ガ設立ニ當テハ、届出ヲ爲サシメ、之ガ監督ト周到ナル注意ノ下ニ、弊害ノ豫防ニ努メ、一方其ノ善良ナルモノノ發達ヲ指導致シ得ルヤウニ考慮致シタル等、全般ニ其ノ保護監督ニ遺憾ナキヲ期シタルデアリマス、又申ス迄モナク憲法ニ定メテアリマス信教ノ自由ニ付キマシテハ、毫末モ之ヲ冒スコトナキヤウ留意致シテ居ルノデアリマス、尙本法案ハ其ノ立案ニ當リ、從來開示セラレテ居リマス各般ノ意見ヲ參照シ、慎重考究ノ上其ノ要綱ヲ宗教制度調査會ニ諮リ、全會一致其ノ可決ヲ見、之ニ基イテ加除訂正以テ本法案ヲ得タルデアリマス、幸ニ本法案ガ成立致シマスルナラバ、宗教行政ハ圓滑ニ運營セラレ、又宗教團體ノ刷新振興ニ寄與致ス所多

大ナルモノアルヲ信ズルノデアリマス、何卒十分御審議ノ上、御協賛アラムコトヲ切望致ス次第デアリマス  
○議長(伯爵松平賴壽君) 松村大藏政務次官

〔政府委員松村光三君演壇ニ登ル〕  
○政府委員(松村光三君) 寺院等ニ無償ニテ貸付シタル國有財産ノ處分ニ關スル法律案、提出ノ理由ヲ御說明申上ダマス、今回宗教團體法案ノ提出ニ際シマシテ、政府ハ是ト共ニ寺院佛堂ノ國有境内地讓與ノ問題ヲ解決スルヲ適當ト認メマシテ、寺院等ニ無償ニテ貸付シタル國有財産處分ニ關スル法律案ヲ提出致シタル次第デアリマス、御承知ノ通り寺院佛堂ノ國有境内地讓與ノ問題ハ多年ノ懸案デアリマシテ、政府ニ於キマシテハ寺院佛堂ノ財産管理ノ方法ガ完備スルニ於テハ、適當ニ之ヲ解決スベキ旨ヲ屢々發

表シ來ツクノデアリマス、今回提案ノ宗教團體法案ガ成立ノ曉ニ於キマシテハ、寺院佛堂ノ財産管理ノ方法モ完備スルコトニナリマスルガ故ニ、宗教團體ヲ保護シテ其ノ教化作用ヲ十分ニ遂ゲシムルガ爲ニ、古來寺院佛堂ト特殊ノ沿革ノ關係ヲ有スル國有境内地ヲ、適當ナル條件ノ下ニ讓與致シマスルコトハ、時宜ニ適シタル措置デアルト信ジマス、本法案ノ概要ヲ申シマス、

本法施行ノ際ニ寺院又ハ佛堂ニ無償ニテ貸付ケテアリマスル國有財産ハ、寺院等ガ一定ノ期間内ニ申請致シマシタ場合ニハ、其ノ境内地トシテ必要ナル部分ハ之ヲ讓與スルコトニナツテ居リマス、而シテ其ノ讓與ハ慎重且公正ニ之ヲ行フノ必要ガアリマスルカラ、寺院境内地處分審査會ヲ設ケ、之ニ諮問シマシテ讓與スルコトト致シマシタ、又其ノ讓與ヲ爲サザル部分ニ付キシマテモ、寺院等ノ申請ニ依リ時價ノ半額ヲ以テ賣拂

ヲ爲シ、其ノ代金ニ付キマシテ八年賦延納ヲ認メテアルノデアリマス、何卒御審議ノ

上速カニ御協賛アラムコトヲ希望致シマス  
○議長(伯爵松平賴壽君) 質疑ノ通告ガゴザイマシタ、御許シテ致シマス、阪谷男爵

〔男爵阪谷男爵君演壇ニ登ル〕  
○男爵阪谷男爵君 文部大臣ニ御尋ネ致シマス、荒木文部大臣ハ御就任以來諸般ノ施設ニ付テ段々御改革ニナツテ居リマスルガ、何レモ先ヅ以テ根本ニ觸レテ、根本ノ弊害ニ著眼シテ御改革ノヤウニ見エマシテ、誠ニ敬服致シテ居ルノデアリマス、扱テ此ノ宗教團體法案ハマダ詳シクハ拜見致シマセヌガ、大體ニ於テ本員ハ異存ハゴザイマセヌ、一ツ伺フテ置キタイト思ヒマス

ノハ、近來宗教家、私ノ申シマスノハ特ニ佛敎ニ付テ申シマス、佛敎ノ僧侶ノ間ニ妻帯ノコトニ付テ問題ガ起ツテ居リマス

ノハ御承知ノ如クデアラウト思ヒマス、妻帯ハ矢張り禁ズルガ宜イ、禁ゼヌガ宜イト云フコトガ一ツノ問題ニナツテ居ル、御承知ノ如クニ日本ノ佛敎ハ御維新前ニ於テハ、其ノ一部分ヲ除クノ外ハ悉ク妻帯ヲ禁

ジタモノデアアル、肉食妻帯ヲ禁ズト云フコトハ國禁ノ一ツトナツテ居ッタノデゴザイマスガ、御維新後ニ神佛混淆ヲ禁ジ、又佛敎家ノ妻帯肉食ノ禁ヲ解カレタ、是レ以來宗教ヲ以テ妻帯肉食ノ禁ヲ嚴守シテ居ル者モアリ、又サウセナイ者モアツテ、段々トソレガ緩ンデ來タヤウニ本員ハ考ヘマス、近來ニ於ケル佛敎家ノ間ノ紛議ト云フモノハ、

多ク此ノ妻帯カラ原因致シテ居ル、妻帯致セバ子供ガ出來ル、家族ガ出來ル、ドウシテモ自分ガ死ヌル時ニハ後ノコトヲ考ヘナケレバナラス、即チ財産争モ起ツテ來ル譯デアアル、元來出家ト云フモノハ家ノナイノガ出家デアラウト、マア佛敎ノ方デハ本體ト致シテ居ル、ソコデ近來名僧智識ノ間ニハ矢張りハ以前ノ妻帯禁ズルト云フ昔ノ制度ニ戻シタ方ガ宜イ、ノミナラス自ラソレヲ厲行シテ居ラル、人モアルノデアリマ

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス、誠ニ是ハ大切ナ問題ト思ヒマスガ、文部大臣ハ其ノ點ニ付テハドウ考ヘテ居ラレマスカ、國法上ニ於テハ禁ズルガ宜イト云フ御考デアアルカ、若シクハソレハ矢張り宗規ニ一任シテ置イタ方ガ宜イト云フ御考デアリマスルカ、其ノ點ニ付テ文部大臣ノ御考ヲ伺ッテ置キタイノデアリマス

○國務大臣(男爵荒木貞夫君) 只今阪谷男ノ御質問ハ、宗教ノ將來ニ對スル一ツノ御意見ト拜承致シマスルガ、只今モ提案理由ノ中ニ申上ガマシクヤウニ、各宗教宗派悉クソレソレノ歴史ヲ有チ、習慣ヲ有ッテ居リマスルノデ、殊ニ信教上ノコトデアリマスルノデ、ソレソレノ内部ノ自治ニ委セマシテ、改ムベキハ自ラ改ムルヤウニ、殊ニ信仰ヲ集メテ教化ニ任ズベキ所ノ重要ヲ宗教ノコトデアリマスルノデ、内部ノ自治ニ依ッテ十分ニ善處セシメタイ、ト斯ウ考ヘテ居ル次第デアリマス

○子爵澤正己君 只今議題トナリマシタ、宗教團體法案外一件ノ特別委員ハ、最も重要ナ法案デアリマスガ故ニ、其ノ特別委員數ヲ十八名トシ、其ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君 贊成

○議長(伯爵松平賴壽君) 只今戶澤子爵ノ御動議ニ御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

- (近藤書記官朗讀)
- 宗教團體法案外一件特別委員
  - 公爵一條 實孝君 侯爵細川 護立君
  - 侯爵久我 通顯君 伯爵柳原 義光君
  - 子爵大河内輝耕君 子爵岡部 長景君
  - 子爵舟橋 清賢君 男爵千秋 季隆君
  - 小原 直君 岡 喜七郎君
  - 塚本 清治君 下村 宏君

男爵松岡 均平君 男爵北島 貴孝君  
田所 美治君 大塚 惟精君  
久保市三郎君 仲田傳之助君

○議長(伯爵松平賴壽君) 園田男爵ニ申上ガマスガ、國務大臣ノ都合ニ依リマシテ、男爵ノ御質疑ニ對スル答辯ハ後ノ場合ニ於テ致シマスルカラ……此ノ場合ハ大臣ノ御都合ニ依リマシテ、其ノ際ニ御許ヲ致シマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第一ニ戻リマス、國務大臣ノ演説ニ關スル質疑ヲ御許シ致シマス、水野甚次郎君

○水野甚次郎君 演壇ニ登ル

○水野甚次郎君 今日ノ重大時局下ニ、日本國民ハ各層舉ツテ協力一致ノ實ヲ示シテ居リマス、全的ニ當局ノ御方針ニ信賴ト期待トヲカケテ居ルカト觀ジラレマス、今日國ヲ舉ゲテ軍官民三位一體協力ノ下ニ防空訓練ガ行ハレツ、アリマスケレド、其ノ殆下ガ列強ノ翻譯追從ニ過ギマセヌ、然ルニ列強ノ建築ト我が國ノソレトハ、全然其ノ趣ヲ異ニシテ居リマシテ、爆彈ノ被害ヨリモ寧ろ恐ルベキハ、三千度ノ高熱ヲ有スル「キロ」ノ燒夷彈デアリマス、一飛行機ニ十「キロ」ノ燒夷彈百個ヲ搭載シ得マスカラ、今日ノ我方建築様式ヲ以テスレバ、之ガ防禦ハ到底人力ノ及ブ所ニ非ザルヲ悲シムモノデアリマス、故ニ勢ヒ不燃燒家屋ニ改造スル外他ニ方策ハゴザイマセヌ、若シ夫レ國內ノ家屋全部ヲ改造スルトセバ、其ノ費用ハ莫大ナ額ニ達スルノデ、財政上多大ノ不利ト困難トヲ招來致シマスノミナラズ、時日ノ問題ニ於テ殆ド不可能デゴザイマセウ、斯ク觀察致シマス、此ノ際此ノ秋我が日本ハ何ヲサテ措イテモ、金ヲ惜マズ、思ヒ切ッテ航空防禦網ガ肝要デアリマセヌカ、來ルナラ來レ、攻防總テ用意萬全、神國日本ノ領土上空ニハ、敵ノ飛行

機一機タリトモ飛翔突入ヲ許シテハナリマセヌ、軍部並ニ關係省ニ於カレマシテモ、國防上ハ勿論、航空對策上、運輸上、交通上其ノ他文化開發ノ必要上ヨリ、航空日本ノ建設ト、防空安全日本ノ樹立トヲ最大急務、第一目標ト致サレマシテ、全能力ヲ此ノ方面ニ集注、以テ其ノ實施實現ニ全幅ノ努力ヲ拂ハレムコトヲ要望シテ已マセヌ、

「防衛ハ既ニ退却ヲ意味ス、眞ノ防衛ハ進ンデ敵ヲ攻撃スルニアリ」トノ眞諦ヲ我我ハ一層銘記シ、空軍ノ大充實ヲ圖ラネバナリマセヌ、今更事新シク繰返ス迄モナク、是カラノ軍事國防策ハ、何ト致シマシテモ、航空國策ノ緩慢ニシ、遠慮勝チ、控ヘ目ニシタノデハ、其ノ價值ニ於テ缺クル處尠少デハナイト憂慮スルモノデアリマス、空ヲ制スルモノ世界ヲ制スルトハ、今日世界各國「モットー」デアリ、目標デアリ、狙ヒデアアルノデアリマス、今ヤ世界ヲ舉ゲテ航空第一主義ノ時代ト進化シ來タノデアリマスカラ、我が日本モ其ノ攻撃ト防空ト二方面ヘノ備ヘノ爲ニ、戰闘機ノ四五千臺乃至五六千臺ハ是非用意サレタイモノデアリマス、而シテ又新大陸ト内地トノ防空、防禦ノ爲ニモ、遺憾ナイ航空國策ガ望マシイ次第デアリマス、單リ軍部ノ戰闘機充實ノミデハアリマセヌ、民間航空機ノ充實策ハ如何ニ計畫致サレテ居リマセウカ、遞信省內ニ航空局ガ獨立設置セラレマシタコトハ、之ガ發達ニ數歩ヲ踏ミ出シタト云フニ過ギマセヌノデ、其ノ積極化コソ望マシク、積極化シナイ限り日本ノ航空網完成ハ、日暮レテ途尙遠シノ憾ミガアリハ致シマセヌカ、囊ニ「ベルリン」、東京間ヲ翔破致シマシタ、ドイッ「民間機「コンドル」」倍容ニ比較シテ、果シテ日本ノ民間機ハドウデアツカト、驚キノ聲ヲ發シナカクデアリマセウカ、假令歸路ニ於テ蹉跌失敗ニ終ツタトハ申セ、全體のニ見テ尙且暗不深イモノノアツタコトヲ、今ニシテ

我々國民ハ感ゼサルヲ得ナイノデアリマス、最近或信ズベキ筋ヨリノ報道ニ依レバ、米國デハ毎年二萬人ノ飛行士養成計畫アリ、更ニ航空機ノ製造能力ニ於テ一日一千臺ヲ超ユルト稱シテ居リマス、固ヨリ是ハ民間各會社ノ製造能力ヲ總計致シマシタ統計デ、此ノ内多數ガ外國ノ商品トシテ輸出サレテ居ルモノデアリマセウガ、ソレダケニイザトナツテノ眞の航空能力ノ程ガ思ヒ遣ラレマス、我が國ニ於テモ軍民一致飛行士ノ大量養成ト共ニ、セメテ一日製造能力二三百臺ニ漕ギ付ケルノ努力精進ガ肝要カト存ジマス、是レ偏ニ政府ノ民間ヘノ獎勵徹底ト、政府又自ラ之ガ製作ニ絶大能力ヲ發揮セラルルコトガ急要デアラウト思ヒマス、更ニ政府ハ何故ニ中央航空研究所ヲ二三學會ノ獨占ニ一任シテ顧ミラレナイノデゴザイマスカ、世ノ無名ナル發明家、熱心家ヲ糾合總動員シ、以テ眞ニ其ノ足ヲザルヲ補フノ努力ト研究ヲ遂ゲシムル御意思ハゴザイマセヌカ、本員ハ無爆音ハ勿論無滑走ノ飛行機ハ、其ノ地形上ヨリスルモ、我が日本國民ノ手ト頭腦ニ依リ是非發明セラレネバナラヌコトヲ確信シ且熱望シテ已マヌ者デアリマス、而シテ是等ノ良キ發達ト擴張トノ爲ニ、政府デハ民間航空機中心ノ獨立シタル航空省ヲ設置スルノ必要ヲ感ゼラレマセヌカ、以上ニ對スル總理大臣ノ御所見ヲ伺ヒマス、次ニ陸軍省ニ於カレマシテハ、航空方面ノ整備充實ニ進一步ヲ加フベク、航空總監ノ獨立設置ヲ期セラレマシタコトハ、輿論ノ一部ヲ反映實現セラレタルノ觀アリ、吾人ノ誠ニ喜ビトシ意ヲ強ウスルニ足ルモノト大ナル敬意ヲ表スル者デアリマ

スガ、之ヲ端緒ト致サレマシテ、更ニ全國各要處々々ニ航空兵團又ハ航空師團等ヲ設置セラレ、以テ我方防空ノ完壁ヲ圖ラ、御意思ハゴザイマセヌカ、遠慮ナク申上

グレバ、今日各都市ニ行ハレテ居ル防

空設備ノ如キハ、眞ノ防衛ニ非ズシテ、消極的退嬰ヲ意味スルモノニ外ナラヌ憾ガアルノデアリマスガ、當局ハ此ノ際積極的ニ移動式防空兵機隊ノ組織編成、即チ高級自動車ニ新設備ヲ施シ、以テ輾轉自由ニ、道アル限リ西ニ東ニ、將南ニ北ニ、照空燈、聽音機、無線電信、高射砲、高射機關銃、是等ノ武器兵器ヲ乘設移動スルモノヲ一隊トスル新防空兵機隊ヲ組織活躍セシメ、帝都ヲ初メ各大都市防空ノ任務ニ服セシムル新制度確立ノ御意思ハゴザイマセヌカ、斯クテ敵ノ一機タリトモ我ガ皇土ノ上空ヲ絕對飛翔突入セシメザル準備ガ必要デハゴザイマセヌカ、一見奇矯突飛ノ説ニ聽キ取ラレカ知レマセヌガ、今日ノ學理的應用進歩ノ立場カラ申シマス、問題ハ單ニ金ト電力トデアリマシテ、電力ノ應用ヲ巧ミニスルナラバ、之ガ實現ハ極メテ容易ナリト深ク信ズル者デアリマス、陸軍大臣並内務大臣ノ御答辯ヲ願ヒマス、次ニ非常時下ニ於ケル研究問題ノ一トシテ一言御質問申上ゲマス、由來日本ハ四面海、即チ海國日本トシテ終始シテ參リマシタ、海上勢力ト申シマス、一ハ海軍ノ軍艦デアリ、今一ツハ海運方面ノ商船デアリマス、空ニ飛行機、海ニ此ノ軍艦商船ト云フ、海上勢力ノ鞏固サガ整テ居リマセヌト、是カラノ海國日本ノ眞使命ノ遂行ト發展トニ幾多ノ支障障礙ガ發生スル虞ガアリマス、而モ海軍ト海運トハ恰モ車ノ兩輪ノ如ク、何レヲ缺キマスモ、海上權力ノ保持獲得ハ至テ困難ナルコトハ今更申上グル迄モゴザイマセヌ、大陸ヘノ人的飛躍ト經濟的進出ヲ大々的ニ行ハナクテハナラナイ現時ニ、特ニ必要ナルハ海運界ノ寵兒、商船隊ノ活躍雄飛デアリマス、現ニ我ガ國ノ海運界ハ一億數千萬圓ニ互ル貿易外ノ收入ヲ擧ゲテ居ルノデアリマス、事變ニ依ル新天地ヘノ進出ハ、今後數億圓或ハ數十億圓ノ純收入ヲ

目指シテ躍進シナクテハナリマセヌ、現在ノ商船隊五百萬トシ、其ノ乗組員十萬ノ職責タルヤ一段ト重キヲ加ヘテ居リマス、此ノ平時ニ於ケル海ノ王者、商船隊ノ勇士タル乗組員達ハ、船長初メ特殊ニシテ優秀ナル手腕技術ヲ有シナガラ、意外ニモ差別的ナ取扱ヲ受クルノ環境ニ放置サレツ、アル事實ヲ見逃シ得ナイ、本員ハ茲ニ改メテ海運界發展ノ爲メ、是等船員待遇改善ノ一方策トシテ、左ノ三點ニ付質問致シマス、一、商船科大學ノ急設、二、軍隊式船員服ノ改良統一、三、船員稱呼名ノ改正、此ノ三者ニ至急手ヲ染メラル、御意思ハゴザイマセヌカ、尤モ軍隊式船員服ノ改善統一ト船員稱呼名ノ改正ト云フ此ノ二ツハ、掲ゲマシタ題目ソレ自身ガ既ニ要望内容ノ全體ヲ説明シテ餘リアルモノトシテ、省略シテ何事モ申上ゲマセヌガ、商船科大學ノ設置ニ付キマシテハ、是非一言附加サセテ戴キタイト思ヒマス、當局ニ御尋ネ致シマス、時勢ハ如何ニ進歩シ、文化ハ如何様ニ進展致シマシテモ、船員ニハ大學教育ヲ授ケルノ必要ハナイノデゴザイマセウカ、船員ノ或者ニモ他科大學卒業生ニ匹敵スル最高等教育ヲ授ケテ、進歩シ行ク時勢ニ適應スル優秀、有益、眞ニ國家ニ役立つ高級船員ヲ造ル必要大イニアリハ致シマセヌカ、文化ハ向上進展シ、文明ハ歐米何レノ國ニ比較對照スルモ、決シテ負ケテ取ラナイ我ガ國現時現在ニ、商船科大學ノ存在シナイコトハ、文化的、學術的ニ跛行デアリ、不公平デハアリマセヌカ、若シ當局ニ於カセラレマシテモ、之ガ必要ヲ認メラル、ナラバ、帝國大學ニ其ノ一科ヲ設ケラル、モ可、又現高等商船學校ヲ昇格セシメラル、モ宜シク、何レニシテモ、至急其ノ實現ニ邁進セラレムコトヲ切望シテ已ミマセヌ、終リニ臨ミ本員ハ文部、逓信兩省閣下ニ御尋シタイ、極メテ緊要ナル問題ガゴザイマス、外

デハアリマセヌ、目下海上生活者、殊ニ其ノ高等船員等ハ一大興奮ト一大驚異ト、而シテ一大「センセーション」ヲ起シツ、アル地方商船學校昇格問題デアリマス、一箇年三十五萬トシ、自然増加率ヲ示シツ、アル我ガ商船隊ハ、數年ナラズシテ、其ノ總「トシ」數一千萬トシ「トシ」ニ達スベキハ、火ヲ睹ルヨリモ明カデアリマス、又斯クアラネバナリマセヌ、然ルニ政府ハ現在八箇ノ地方商船學校ヲ僅カニ四校昇格セシメ、殘餘ノ四校ハ、之ヲ海員養成所ノ名目トシテ、廢校セラレムトスル御意嚮ノ如ク傳ヘラレテ居リマスガ、本員ハ之ヲ信ジタクナイノデアリマス、然レドモ是等諸校ヲ卒業セル現高等船員一萬數千名ハ、今ヤ死線ヲ超エテ大動搖ヲナシツ、アル事實ガアルノデアリマス、新タニ官立商船學校ヲ四校設置セラル、コトハ雙手ヲ舉ゲテ贊成致シマスケレドモ、現地方商船學校ヲ廢シ、其ノ半數ヲ移管セシメラル、コトニハ遺憾ナガラ反對セザルヲ得ナイノデアリマス、而モ各地方廳ニ於テ數十年來指導教養シ來リタル殘餘ノ四校ハ、之ヲ廢校セムトスルニ至リテハ言語道斷沙汰ノ限リデアリマス、加フテハ昇格ハ名目ノミニシテ、卒業生ノ將來ニ於ケル資格ハ、現在ノソレヨリモ寧ロ低下スルモノナリトテ、昇格内定ノ諸校卒業生モ之ニ反對セル現狀ハ、何物ヲ物語ルテ居ルノデアリマセウカ、角ヲ矯メムトシテ牛ヲ殺シタ愚人ノ轍ヲ履ムガ如キ行爲ニ了ラザレバ幸デアリマス、此際政府ハ寧ロ百尺竿頭一步ヲ進メテ官立四校ハ之ヲ新タニ他ニ建設セラレ、地方廳ニ於ケル既設八校ハ之ヲ助長獎勵セラレ、將來ノ高等船員ノ養成ニ策セラル、御意思ハゴザイマセヌカ、板子一枚下ハ地獄ノ生活ヲナシ、國家ノ爲ニ第一線ニ活躍シテ居ル我ガ愛スベキ商船員ヲシテ、繼子イデメヲセラル、ト云フ僻ミ心ト危懼ノ念ヲ起サシメザルヤウ、

一段ノ御留意ヲ御願シテ已マス者デアリマス、以上ヲ以テ本員ノ質問ヲ打切り、御清聽ヲ感謝シナガラ當局ノ熱意アル御答辯ヲ御待チ致シマス

〔國務大臣板垣征四郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(板垣征四郎君) 今後ニ於ケル國政ノ發展並國防上、航空ノ使命ガ益々重大ヲ加ヘマスルコトハ御説ノ通りデゴザイマシテ、航空ノ飛躍的進歩ヲ期スル爲ニハ、國政ノ廣汎ナル部門ニ互リマシテ、之ヲ航空發達ニ適合スル如ク運営スルコト及ビ此全國民ノ舉國一致ノ努力ヲ傾注スルコトヲ必要ト信ジマス、之ガ爲ニハ曩ニ航空局ガ創設セラレタノデアリマスガ、陸軍ト致シマシテハ之ヲ以テ未ダ十分ナリトハ考ヘテ居リマセヌ、更ニ強力ナル機構ノ必要ヲ痛感致シマシテ、關係當局ト共ニ之ガ研究ヲ進メテ居ル次第デアリマス、尙航空兵器等ニ付キマシテモ、日進月歩ノ趨勢ニ遅レザラムコトヲ期シマシテ、折角研究ヲ遂ゲツ、アリマスノデ、御期待ニ副ヒ得ルコトト信ジテ居リマス

〔國務大臣鹽野季彦君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(鹽野季彦君) 民間航空事業ノ件ニ付キマシテ、只今水野サンニハ總理大臣ノ答辯ヲ御要求ニナリマシタガ、總理大臣ハ只今衆議院ノ豫算總會ニ出席中デゴザイマスカラ、主管大臣ト致シマシテ、私ヨリ一應御答ヲ申上ゲマス、御諒承ヲ願ヒマス、民間航空事業ノ整備擴充ヲ圖リマシテ、帝國經濟力ノ充實發展ヲ策スルト共ニ、國防力ノ増大強化ニ資スルコトハ、新東亞建設工作上必要缺クベカラザルノ要件デアリマシテ、政府ニ於キマシテハ財政ノ許ス限リニ必要ナル經費ヲ豫算ニ計上致シマシテ、本事業ノ發達ヲ促進スル考デアリマス、即チ其ノ一ツニハ、航空路施設ノ完備擴充ニ關スルコトニ努メテ居リマス、國內幹線航空路モ近ク完成スル豫定デアリマス

ガ、航空路施設ノ整備擴充ハ一日モ忽セニ  
スルコトヲ許シマセヌカラ、昭和十四年度  
以降ニ於キマシテハ、其ノ整備擴充ヲ致シ  
マスル爲ニ、豫算ノ上ニ於キマシテモ、經  
費ヲ計上致シテ居ルヤウナ次第デアリマス、  
其ノ二ハ、内外定期航空路ノ伸張ノ件ニモ努  
メテ居リマス、此點ニ付キマシテモ、昭和十  
四年度ノ豫算ニ相當ノ經費ヲ計上致シテ居  
ルヤウナ次第デアリマス、其三ハ、航空機  
製造事業ノ確立ニ關シテモ專ラ努力致シテ  
居リマスルガ、只今御説ニモアリマシタ通  
リ、我方航空工業ノ發達ヲ期スル爲ニ、前  
議會ノ御協賛ヲ得テ設立致シマシタ中央  
航空研究機關設立準備ヲ致ス部ヲ設ケマシ  
テ、中央航空機關設立委員會ヲ設置シテ、  
其ノ準備、計畫ヲ進メツツアルヤウナ次  
第デアリマス、昭和十四年度以降五箇年間  
ニ互ル繼續費ヲ致シマシテ、昭和十四年  
度ノ豫算ニ於キマシテモ、相當額ヲ計上致  
シテ居ルヤウナ次第デアリマス、尙航空  
省設置ニ關スル當局ノ意見ヲ聽キタイト云  
フ御尋ノヤウデアリマシタガ、我が國現下  
内外ノ時局ニ徴シマスルモ、帝國將來ノ發  
展ヲ期スル上ニ於キマシテモ、航空事業ノ  
軍事的、經濟的の使命ハ愈々重且大ナルモノ  
ガアリマス、ガ併シナガラ我が民間航空事  
業ハ未ダ微々トシテ振ハナイヤウナ次第デ  
アリマシテ、政府ハ從來ニ於キマシテモ銳  
意ノガ振興、發展ニ努力シテ參ツタノデア  
リマスルガ、未ダ遺憾ナガラ民間航空ノ現  
狀ニ於キマシテハ、專任大臣ヲ置ク域ニ達  
シテ居リマセヌガ、更ニ新業ヲシテ格段ノ  
飛躍的發展ヲ遂ゲシメタル曉ニ於キマシテ  
ハ、即チ民間航空ノ基礎、内容共ニ充實致  
シマスレバ、自ラ之ヲ專管スル行政機構等  
ニ付キマシテモ、考慮セラルベキモノト考  
ヘテ居ル次第デアリマス、次ニ海運ノ擴充  
ニ關スル件ニ付テ御答ヲ申上ゲマス、海運  
事業ガ經濟上、將又國防上、極メテ重要ナル

使命ヲ有シテ居リマスルコトハ、改メテ申  
上グル迄モナイコトデアリマス、殊ニ帝國  
ノ對支活動ガ所謂長期建設ノ段階ニ入りマ  
シタル今日、海運ノ使命ガ愈々重大ヲ加ヘ  
テ參リマシタル事實ニ鑑ミマシテ、政府ニ  
於キマシテモ海運業ノ全面的發展ヲ圖ルベ  
ク、對外航權ノ伸張、海軍金融施設ノ改  
善、對支對滿航路ノ整備擴充、優良船員ノ  
養成、海運並造船事業ノ確立振興等ニ關シ  
マシテ、銳意對策ヲ考究中デアリマス、今  
議會ニ於キマシテモ、是等政策ノ具現ニ必  
要ナル豫算ヲ計上シ又之ニ關スル法律案ヲ  
提出スベク準備ヲ進メテ居ル次第デアリマ  
ス、商船員服ノ制定ニ關シテノ御尋ガア  
リマシタガ、船内勤務ノ關係カラシテ各制  
服ヲ定メテアル情況デアリマスルガ、之ガ  
改善等ニ付キマシテハ、將來一層研究ヲ致  
シタイト考ヘテ居リマス、又船員ノ稱呼ニ付  
キマシテモ、是亦研究シテ善處致シタキモ  
ノト考ヘテ居リマス、尙船員ノ教育ノ問題  
ニ付キマシテ、商船科大學ヲ設置シテハ如  
何カト云フ御質問ガアリマシタガ、誠ニ高  
級船員ノ必要デアアルコトハ申上迄モナイコ  
トデゴザイマス、只今ノ處政府ト致シマシ  
テハ、官立ノ高等商船學校、又官立ノ商船  
學校並、海員養成所ト云フ三ツノ教育機關  
ヲ以テスル方針デアリマスルガ、尙其ノ上  
ニ大學程度ノモノヲ置クコトニ付キマシテ  
ハ、十分ニ考究致シテ善處致シタイト考ヘ  
テ居ル次第デアリマス、序ニ公立商船學校  
ノ存廢ニ付テノ御尋モゴザイマシタガ、此  
ノ點ニ付キマシテハ目下調査研究中デゴザ  
イマシテ、何レ其ノ中ニ確定ヲ致スコトト  
存ジテ居リマス、以上ヲ以チマシテ御答ト  
致シマス

ノ船舶職員タルベキ者ノ養成機關トシテ  
ハ、專門學校令ニ依ルモノハ、東京、神戸  
ノ高等商船學校デアリマシテ、其ノ就學年  
限ガ五年六箇月デアリマシテ、一般ノ他ノ  
專門學校ニ較ベバ、極メテ長期ニ互ツテ  
居ルノデアリマシテ、十分ナル學習ヲ爲サ  
シメテ居ル積リデアリマス、此ノ種學校ノ  
卒業者ノ職業ノ重要性ニ鑑ミマシテ、其ノ  
資質向上ニ努メマスルコトハ、固ヨリ重要  
ナコトデアリマスルガ、商船科大學ヲ設置  
スルコトハ、學科ノ性質等ニ鑑ミマシテ、  
相當考慮ヲ拂ハネバナラスモノト存ジマス  
ルノデ、直チニ此ノコトニ關シテノ御答ヲ  
致シ兼ネルノデアリマス、尙船舶ノ建造等ノ  
技術教育ニ付キマシテハ、御承知ノヤウニ東  
京帝國大學ノ工學部ニ船舶工學科、九州、大  
阪ノ兩帝大ニハ造船學科ガ設ケラレテ居リ  
マシテ、此ノ方面ニ於テ十分此ノ方面ノ研究ヲ  
致シテ、教養モサセテ居ル次第デアリマ  
ス、ソレカラ第二點ノ高等商船學校ノ問題  
デアリマスルガ、只今既ニ遞信大臣カラ概  
要御答ヲ申上ゲタヤウデアリマスルガ、一  
應重ネテ申述ベテ置キタイト存ジマスルノ  
ハ、只今御指摘ガアリマシタヤウニ、我が  
國ノ海運ノ進展ヲ將來ニ期スルコトハ當然  
ナコトデアリマシテ、私ト致シマシテモ、  
我が國ノ將來ガ海洋方面ニ對スル大ナル活  
躍ヲ期待シテ初メテ今回ノ長期建設ノ一端  
ヲモ擔任スルコトガ出來ルト信ジテ居ルノ  
デアリマシテ、斯様ナコトガ既ニ過去ヨリ  
考ヘラレテ居リマスルノデ、之ニ適應シマシ  
テ海員ノ資質向上ニ對スル意見ハ多年各方面  
ヨリ叫バレテ居タノデアリマス、而シテ只今  
ノ公立商船學校デハ十分デアアルカラ、之  
ヲ國立ト致シマシテ、更ニ其ノ内容ヲ強化ス  
ル必要ガアリトセラレテ居タノデアリマス、  
然ルニ財政其ノ他ノ關係ニ於テ今日迄實現ガ  
出來ナカッタノデアリマスルガ、今回之ヲ  
實現ヲ致スコトニ努力致シマシテ、茲ニ多

年ノ懸案ヲ解決シテ、國立商船學校ノ設立  
ヲ見ルニ至ツタノデアリマス、而シテ只今御  
指摘ノ學校數ヲ減ラスコトニ對シテ御異議  
ガアルヤウデアリマスルガ、内容ヲ強化改  
善、又教員ノ配合擴充ノコトヲ考ヘマスル  
ト、之ヲ一箇所ニ集メマシテ、此處ニ十分  
ナル設備ヲスルコトガ最モ適當ト認メラレ  
マシテ、關係當事者ノ間ニ十分ノ交渉ヲ重  
ネテ、茲ニ取敢ズ四校ヲ以テ將來ノ第一機  
關トセラレテ居リマスル所ノ船員ノ養成ヲ  
スルコトニ致シタノデアリマス、而シテ海  
員養成ニ付キマシテハ只今遞信大臣カラ御  
懸案ヲ解決スルノデアリマスルカラ、原則  
ト致シマシテハ官立高等商船學校、國立商  
船學校及海員養成所ニ於テ爲スコトニ致シ  
テ居ルノデアリマスルガ、尙現在ノ商船學  
校ノ……公立商船學校ノ問題ニ付キマシテ  
ハ、今日將來ノコトヲ考ヘマシテ考究考慮  
中デアリマシテ、然ルベキ方法ヲ以テ解決  
ヲ致シタイト存ジテ居ル次第デアリマス、  
以上ヲ以テ御答ニ致シマス

〔水野甚次郎君發言ノ許可ヲ求ム〕  
○議長(伯爵松平賴壽君) 水野君ハ、マダ  
内務大臣ノ御答辯ガアルヤウデアリマス

〔國務大臣侯爵木戶幸一君演壇ニ登ル〕  
○國務大臣(侯爵木戶幸一君) 只今水野サ  
シカラノ御尋ハ、民間防空研究ヲ促進致シ  
マス爲ニ、防空研究所ノ設置ニ付テノ件ト、  
又都市防空ニ付キマシテノ御質問デアッタ  
ト存ジマス、第一ノ御尋ノ民間防空研究ヲ  
促進スルト云フコトハ、防空ト云フコトガ  
其ノ關係スル所ガ非常ニ廣ク且複雜デアリ  
マスノデ、其ノ研究ハ各方面ニ於キマシテ  
行ヒマスコトガ極メテ重要ナノデアリマス、  
政府ニ於キマシテハ是等ノ研究ヲ管掌致シ  
マスト共ニ、政府自ラニ於キマシテモ研究  
ヲ爲ス爲ニ、來年度ニ於キマシテ十五萬圓  
ノ經費ヲ計上致シマシテ、内務省ニ於テ其

ノ研究機關ヲ設置スルコトト致シタヤウナ  
次第デアリマス、又都市防空ハ我が國ノ都  
市ノ建築其ノ他ノ情況ニ鑑ミマシテ、之ニ  
應ジタル處置ヲ爲スコトガ必要ニ相成ツタ  
ノデアリマス、從ヒマシテ中央防空委員會  
等ノ意見ヲ徵シマシテ、漸次之ガ實行ヲ促  
進シテ行ク積リデアリマス、來年度ニ於キ  
マシテモ綠地ノ設置ガアルトカ、或ハ重要  
ナ都市ニ於キマスル木造建築ノ改修等ニ對  
シマシテハ、既ニ經費ヲ計上シテ居ルヤウ  
ナ次第デゴザイマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 水野甚次郎君

○水野甚次郎君 簡單デゴザイマスカラ此  
ノ席デ……

○議長(伯爵松平賴壽君) 宜シウゴザイマ  
ス、成ルベク御高聲ニ願ヒマス

○水野甚次郎君 遞信大臣ニ御伺致シマス  
ガ、私が防空充實ノ質問ヲ致シマス度毎ニ、  
民間航空ハ遲々トシテ振ハナイト云フ御答  
ヲ得テ居ルノデアリマス、民間航空ガ遲々  
トシテ振ハナイノハ何故デゴザイマセウ  
カ、私ハ民間航空ガ遲々トシテ振ハナイ所  
ノモノハ、政府當局ニ本當ニヤラウト云フ御熱  
心ガ聊ガ缺ケテ居ラル、ノデハナイカト疑  
ハザルヲ得ナイノデアリマス、遲々トシテ  
振ハナイ、振ハセラレルナラバ振フノヂヤ  
ナイカト思フ、是等ニ付テ御答辯ハ要リ  
マセヌケレドモ、將來民間航空ノ發展ニ付  
テ十分ナル御研究ト御熱心ヲ以テ促進ヲシ  
テ戴キタイコトヲ此ノ際附加ヘテ置キマス、  
内務大臣ニ御伺ヒ致シマスガ、今内務省ノ  
防空局ヨリ各地方廳、市町村ニ對シテ防空  
ノ設備ハ井戸ヲ掘レ、穴ヲ掘レト云フ御命  
令デアリマスケレドモ、穴ヲ掘テ幾人ノ人  
ガ避ケ得ラレルデアリマセウ、又井戸ヲ掘  
テドウシテ此ノ三千度ノ強熱ヲ有スル燒夷  
彈ヲ防ギ得ルデアリマセウカ、無イヨリハ  
宜イデゴザイマセウガ、積極的ニシテ防空  
設備、防空ノ方法ヲ、唯民間デヤツテ居ルト

云フヤウナコトデナク、積極的ニ防衛策ヲ  
講ゼラレル必要ガアリハ致シマセヌカ、即  
チ防空ノ充實ヲスルノガ第一デアリマス  
ト、其ノ建築様式ニ對シマシテハ、燒夷彈  
ヲ防衛スル爲ニドウシテモ轉々道路上ヲ移  
行スル照明燈ヲ置キマシテ、一箇所ニ照明  
燈ヲ置キマスルコトハ其ノ場所ノ存在ヲ飛  
行機カラ見ラレル虞ガアリマス、照明燈ヲ  
移行致シマシテ敵ヲ欺ク必要ガアルノデハ  
ナイカ、又ソレニ別ノ自動車ニ高射砲、高  
射機關銃、聽音機等ヲ各自動車ニ載セテ、  
サウシテ敵ノ飛行機、照明燈ニ欺カレテ來  
タ飛行機ハ直チニ之ヲ擊墜スルト云フヤウ  
ナ方法ヲ積極的ニ研究シテ載クコトハ出來  
マセヌデゴザイマセウカ、唯消極的ニ穴ヲ  
掘レ、井戸ヲ掘レ、砂ヲ用意シテ置ケ、一  
軒ノ家ニ四斗樽ヲ用意シテ、私ハ四斗樽位  
デ何十「キロ」三千度ノ高熱ノアル燒夷彈ヲ  
防グコトハ絕對ニ不可能デアルト信スルノ  
デアリマス、是等ニ付テ内務大臣ノ御考  
ヲ承ツテ置キタイト存ジマス

(國務大臣侯爵木戶幸一君演壇ニ登ル)

○國務大臣(侯爵木戶幸一君) 只今縷々ト

防空ニ關シマスル御意見ヲ承リマシタノデ  
アリマスガ、内務省ニ於キマシテハ大體ニ於  
キマシテ國民防空ヲ主宰シテ居ルノデア  
リマス、從ヒマシテ只今御話ノヤウナ兵器  
ヲ利用スルトカ、サウ云フヤウナ問題ニナ  
リマスルト、是ハ軍防空ト國民防空ト、丁  
度相牽聯スル問題ニナルノデアリマシテ、  
其點ニ付キマシテハ、決シテ内務省トシテ  
モ等閑ニ付シテ居ルノデアリマセヌ  
デ、ソレ等ノ點ニ付キマシテハ軍當局トモ十  
分連絡ヲ取りマシテ、又中央防空委員會等  
ノ意見ヲ徵シテ、萬遺漏ナキヲ期スルヤウ  
ニ折角研究シテ居ル次第デゴザイマス  
○水野甚次郎君 御親切ナ御答辯ヲ得マシ  
テ満足致シマスガ、更ニ一言御伺ヒ致シタ  
イノハ、文部省關係ニナルノデゴザイマス

カ分リマセヌガ、先程御尋シマシタ中央防  
空研究所ノ問題デアリマス、是ハ是非國內  
ノ無名ノ發明家、若シクハ熱心家ヲ求メラ  
レテ十分ナル研究ヲセシメラレル必要ガゴ  
ザイマセヌデセウカ、アノ世界一ノ海軍ノ  
潜水艦ハ誰ニ依ツテアレガ發明サレテ居  
カト云フコトニ想ヒ到ツタ場合、唯二三ノ學  
者ニ一任シテ置イテ然ルベキモノデアリ  
マシ、更ニ此ノ機會ニ私ハ中島飛行機株式會  
社ヲ初メトシテ、幾多ノ有力ナル飛行機會  
社ガアリマスガ、是等ニ對シテ陸海軍ガ唯  
飛行機ヲ斯ウ云ツタモノヲ造レト云ツテ、  
ソレヲ造ラシテ居ラレルカノヤウニ承ツテ居  
リマス、陸海軍ノ註文ヲ唯受ケルガケデナ  
ク、各飛行機會社ニ命ゼラレテ飛行機研究  
室、飛行研究所トカ各會社ニ命ゼラレテ  
研究セシメラル、御意思ガゴザイマセヌデ  
セウカ、日本ノ纖維工業ガ英國ヲシテ怖  
シメテ居リマスル原因ノモノハ、各纖維工  
業ノ會社ガソレノ研究室ヲ持ツテ居ルノ  
デアリマス、此ノ事實ヲ御考ニナツタナラ  
バ、アノ有力ナル飛行機會社ニ命ゼラレ  
テ、獨自ノ研究ヲセシメラレル必要ガゴザ  
イマセヌデセウカ、此ノ點ヲ御伺致シマス

(國務大臣侯爵荒木貞夫君演壇ニ登ル)

○國務大臣(男爵荒木貞夫君) 御質問ガ各

方面ニ互ツテ居リマスルノデ、私カラ全部ヲ  
御答スル譯ニハ參ラヌト存ジマスガ、航空  
ノ研究ノ重要性ニ付テハ今日到ル所其ノ必  
要ヲ認メテ居リマシテ、文部當局ト致シマ  
シテモ、最近ニ關シテノ只今御說ノアリ  
マシタヤウナ方向ニ向ツテ何等カノ處置ヲ  
講ズル必要ヲ認メテ、ソレノ「考究中デア  
リマス、又今日ノ機關ニ於キマシテモ各方  
面トモニ表ニハ現レマセヌガ、非常ナ努力  
ヲ拂ヒマシテ異常ノ躍進ヲシツ、アルモノ  
ト認メラル、ノデアリマス、更ニ科學調査  
振興會ヲ設ケマシテ、是等ノ點ニ互ツテモ

其ノ基礎學、又是等ノ具體的、各種ノ方法  
ニ付テモ目下考究中デアリマシテ、各委員  
ハ非常ナル熱誠ヲ以テ此ノコトヲ考究サレ  
テ居リマスノデ、御心配ノ點ハ誠ニ感謝ニ  
堪ヘナイノデアリマスガ、以上ノヤウナコ  
トノ實現ヲ期シテ御期待ニ副ヒタイト存ズ  
ル次第デアリマス

○水野甚次郎君 文部大臣ノ御親切ナル御

答辯ヲ得マシテ満足致シマス、ドウゾ宜シ

ク防空日本ノ建設ニ向ツテ邁進セラレムコ  
トヲ切望致シマシテ私ノ質問ヲ終リマス  
○議長(伯爵松平賴壽君) 淺田男爵ニ伺ヒ  
マスガ、大臣ノ出席ハ只今内務大臣ダケ御出  
席ニナツテ居ルヤウデアリマス、文部大臣ト  
御兩君デアリマスガ、御質問ノ御趣旨ニ依  
リマシテ内務大臣ダケノ御質問ヲ願ヒタイ  
ト存ジマス、淺田男爵  
○男爵淺田良逸君 左様ニ致シマス  
(男爵淺田良逸君演壇ニ登ル)  
○男爵淺田良逸君 今日ハ戰サ中デゴザイ  
マス、此ノ戰サハ長ク續クデゴザイマセウ  
カ、又更ニ大キクナルコトヲ覺悟シナケレ  
バナリマセヌ、茲ニ於テ全國民ハ國防ト云  
フコトニ付キマシテハ深甚ノ關心ヲ有ツテ  
居ル次第デゴザイマス、此ノ意味ニ於キマ  
シテ、私ハ國防ニ關スル重要問題ト信ジマ  
スル件ニ付キマシテハ總理大臣初メ軍部大  
臣ニ御尋ネ申上ゲタイト存ジマシタル處、  
今日ハ御出席ガゴザイマセヌノデ次會ニ  
讓ルノ已ムヲ得ザルコトデゴザイマス、續  
イテ國防ノ一部分デゴザイマスル所ノ防空ニ  
付キマシテハ、其ノ根本ヨリ申上ゲタ後ニ  
スルガ順序デゴザイマスルケレドモ、何サ  
マ軍國多事ノ今日デゴザイマスルノデ、時  
間ノ節約上防空ニ關スルコトノミヲ御質問  
申上ゲタイト存ジマス、各國ガ競フテ航空  
ニ專念ヲ致シテ居リマス故ニ、若シモ多數  
ノ航空機ヲ有スル所ノ國ト交戦ヲ致シマシタ  
ナラバ、如何ニ軍ガ骨ヲ折リマシテモ、此

ノ廣イ空中全體ノ護リヲ全ウシ、敵ノ飛行機ノ一臺モ我が上空ニ飛ンデ來ナイナドト云フコトハ思ヒモ寄ラヌコトデアルト思フテ居ルノデゴザイマス、今日一觸即發ト申セラレテ居リマス此ノ危險ナル時機ニ於キマシテ、風雲若シ一ト度動イタナラバ日本海ノ彼方ヨリ、又太平洋ノ沖ヨリ、我が國防ノ最弱點トモ考ヘマス此ノ此ノ空襲ト云フコトガアルニ付キマシテ、私共ハ大ニ憂慮スルト共ニ主管大臣デゴザイマス所ノ内務大臣トシテハ、軍防空ニ關聯シ、國民防空ヲ如何ニシテ全ウスルカト云フコトニ付テハ御苦心ハ察セラレル次第デゴザイマス、左様ナ不祥事ノ起リマシタ場合ニ、固ヨリ國民ハ皆先キニ立テ防空ノコトニ當ルニ違ヒナイノデ、何人モ斯様ナコトハ法文ニアルカラ無イカラト云フヤウナコトヲ以テ言ヒ通レラスルコトハアルマイトハ存ジマスケレドモ、過去ノ歴史ヲ顧ミマスレバ、儼然タル兵役法ガアリマシテモ、兵役ヲ忌避スル者ガ實體ノニモ亦精神ノニモアツクコトニ思ヒ及シマスルコト云フ、實際今度ノ防空ノ任ニ當リマスル場合ニハ、非常困難モアリ、危險モ伴フデアリマス、此ノ場合ニ於キマシテ單ニ國民ノ自覺ノ奉仕ニ俟ツト云フコトガ如何ナモノデアラウカ、矢張り是ハ法律ヲ以テハキリト防空、國防ハ國民全體ノ義務デアル、斯ウ云フコトヲハキリト示シテ、若シ之ニ背ク場合ニ於ケル所ノ制裁ヲモ明カニシ、サウシテマサカノ時ノ用意ヲ完備スルト共ニ、又平常ニ於キマスル訓練ヲモ徹底セシメル必要ガアルト存ズル次第デアリマス、此ノ點ニ付キマシテ内相ガ如何ニ御考ニナリ、又如何ニ御研究ヲ御進メニナツテ居ルカラ伺ヒタイノデゴザイマス、防空ノ爲ニハ都會ノ中心バカリデナク、其ノ周圍モ全國一體トナツテ事ニ當ラナケレバナリマセヌ、是ハ何人モ知ツテ居ル所デアリマス、就キマシテハ今

日各所ニ流行致シテ居リマス所ノ防火群ト稱ヘルガ如キモノヲ、全國的ニ之ヲ組織化シテハ如何デゴザイマセウカ、概テ十軒以內ノモノヲ區切リテ致シマシテ、イザ空襲ト云フ場合ニハ軍隊ガ居リマセヌデモ、又外ニ出テ居ル所ノ人達ノ力ヲ藉リマセヌデモ、家ニ殘ッテ居ル所ノ家族ダケヲ以テ、是等ノ人達ニ依リマシテ消火デモ或ハ防毒デモ、一切ノコトガ出來ルヤウニスル組織ガ必要デアラウト考ヘマス、サウシテ此ノ小サイ細胞組織ガ町内ニナリ、又部落ニナリ、部落カラハ町村ニ及シ、町内カラハ區市ニ及スト云フ、斯ウ云フコトニナリマシテ、一元的ノ強力ナル團體ヲ作ルコト云フコトガ一番有效デアラウト思フガ如何デゴザイマセウカ、尙私ハ只今申上テ居ル所ノ組織ヲ單ニ防空ト云フコトニ限ラズニ、之ヲ廣ク押シ擴メテ、國防ノ目的ヲ達スル所ノ一ツノ國民的組織ニシテハ如何ナルモノデアルカ、敢テ私ハ茲ニ「ドイツ」ノ「ヒトラー」ノヤリマシタコトヲ禮讚スル者デハゴザイマセヌケレドモ、斯クノ如ク致シマシテ之ヲ市或ハ府縣ニ一致ラセシメテ、政府ノ指導ニ從テ隨時必要ト思フ國防要綱ヲ此ノ機關ヲ通シテ國民ニ徹底セシムルト共ニ、又實行セシメタナラバ、極メテハ全國的ニ行キ渡ルデアラウト思フノデゴザイマス、此ノ制度コソハ誠ニ近代の、合理的の、而モ相剋摩擦ノナイ所、我が國體ニモ相應ジ、我が國古來ノ獨得ノ兵制ニモ一致スルモノデゴザイマスルガ故ニ、斯クノ如キ所ノ制度ヲ御研究ノ結果御採擇ニナツテハ如何デアルカト云フコトヲ申上テガラ國民防空ノコトニ付キマシテ志ヲ居キ、現ニ中央防空委員ノ末席ヲ汚シテ居ル者デゴザイマスルガ故ニ、政府ト專念協力ヲ致シマシテ、何トカシテ此ノ防空事業ノ完成ヲ致シタイト思ウテ居ルノ

デゴザイマスケレドモ、今日此ノ戰時體制デアリナガラ、誠ニ私共ノ思フヤウニナラナイノデアリマス、率直ニ申上テマスルナラバ、私ト致シマシテ主管タル内務當局ニ頗ル不滿ノ念ヲスラ抱イテ居ル者デゴザイマス、斯様ニ申上テマスレバ、先程モ水野君ノ御質問モアリマシタガ、火ヲ消ス云々ノコトナドニ付キマシテモ、今年度ノ豫算ニ於キマシテハ稍從來ト變テ進展ヲ見テ居ルノデハゴザイマスケレドモ、私ガ之ヲ將來戰ト云フコトニ考ヘテ見マスル時ニ、詰リ現政府ガ二大使命ト致シテ居リマスル其ノ二大使命ニ、直グニ引續イテ參取リマシテ、斯様ナ程度ノ防空豫算ヲ取リマシテ、果シテドウナルカト云フコトヲ眞ニ憂ヘテ居ルノデゴザイマス、ソコデ私ハ茲ニ御尋ヲ申上テタイコトハ、斯ウ云フ豫算ヲ計上シテ居ル、斯ウ云フ仕事ヲスルト云フ、サウ云フ些々タルコトデアリマセヌノデ、内務大臣トシテ眞ニ責任ヲ感じ、如何ニシテ我が國土防空、國民防空ヲ全ウスルヤノ抱負經綸ニ付テ御披露ヲ願ヒタイノデゴザイマス、又今年ノ此ノ豫算ト云フモノハ、一體内務大臣ノ描イテ居リマスル此ノ防空ノ何分ノ一位ノモノデアルカ、其ノ根本ガ御極リニナツテ居ルカ、私ハ其ノ本ヲ御尋シテ、サウシテ今年度ニ於キマシテ幾干迄總體計畫ノ部分ガ達成セラレルデアルカラ御尋申上テタイノデゴザイマス、次ハ前議會ニ於キマシテ色々防空協働助成機關ノ問題ガ出テ、私共ハ一刻モ早く之ガ創立ヲ期待シテ居ルタニ拘ラス、又私共ハ委員ト致シマシテ政府ニ要望致シタニ拘ラス、十一月ト云ヒ、十二月ト云ヒ、時過ギテ一月トナリ、未ダ其ノ創立ヲ見ナイト云フコトハ、一體ドウ云フ原因デアルカ、其

ノ成行ノ大體ヲ伺ヒタイノデアリマス、斯クノ如ク半歩漫々、如何ニモドウモ不徹底デゴザイマスノハ一體ドウ云フコトガ原因デアルカ私ハ分リマセヌケレドモ、昔カラ内務省ニハ警保局ト云フモノガアリ、警察ヲ管掌致シテ居ル、其ノ警察ヲ使ヒマシテ今度防空ハ指揮監督スルト云フコトニナツテ、計畫局ト云フ新シイ局ガ之ヲ御管掌ナサルト云フコトニナル、サウスルト果シテ其ノ警保局ト云フモノト計畫局トノ間ニ於ケル仕事ガウマク行クデアラウカ、人間ニハ感情ガアル、或ハ仕事ノ分界ニ於キマシテモ色々其處デ論議セラレルコトガアルノデアラウト思ヒマス、果シテ左様ナコトガアルカナイカ、是ハ事實上ニ於テ頗ルムツカシイ問題デアラウト思フ、又警防ノコトハ甚大切デアアル、斯ウ申シナガラ、内務省ニ於キマシテハ是ガ良イト信ジマシテモ、斷乎トシテ六大都市ニ向ッテ斯クセヨト云フコトガ出來ナイ情勢ニ在ル、斯様ナコトデアハ私ハ誠ニ權威ニ關スルト云フコトノミナラズ、實際問題トシテ左様ナコトデアハ、此ノ防空ニ對スル所ノ熱意ニ於テ、斷乎トシテ必要適切ナルコトヲ要望スルト云フコトデナケレバナラヌト思ヒマスルガ、動モスレバ其ノ間ニ於テ妥協適合、全クドチラトモ付カヌコトニ於テ終始スルコトニ相成ル憂ガアルノデゴザイマス、又今日ノ此ノ制度ヲ見マシテ、防空ノコトハドウモ各省ニ跨ッテ居ル、各省ガソレソレノ申分ガアル、斯様ナコトノ爲ニ進展ヲ見ナイノデアラウカトモ懸念ヲ致シマスノデ、其ノ間ノ事情ト將來ノ決意並ニ斯クノ如キコト無カラシムル爲ノ方策ニ付キマシテ、内相ノ御考ヲ伺ヒタイノデゴザイマス、終リ

(國務大臣侯爵木戶幸一君演壇ニ登ル)  
○國務大臣(侯爵木戶幸一君) 淺田男爵ノ御質問ニ對シテ御答ヲ申上テマス、現下ノ重大時局ニ對シマスル淺田男爵ノ御高見

ハ、私モ全然御同感デアリマス、防空ニ付キマシテハ、特ニ力ヲ用ヒテ萬遺漏ナキヲ期シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、只今御尋ノ第一點ハ、防空ヲ國民ノ義務トシテ規定スル考ハナイカト云フ御尋ノヤウデアリマシタガ、防空法ハ一昨年ノ十月ニ實施セラレマシテ、只今マダ短イ經驗デアリマスガ、併シナガラ此ノ實施致シマシタ實績ニ徴シマス、將來改正ヲ要スルト認メラレル點モ少クナイノデアリマス、現在施行シテ居リマスル所ノ防空法ニ於キマシテハ、國民ノ義務ト云フコトハ書イテ居リマセヌノデアリマス、併シナガラ今日防空ヲ國民ノ國家ニ對スル義務デアルト云フコトハ、實際ノ指導其ノ他ニ當リマシテハ徹底ノニ此ノ趣旨ヲ徹底サセテ居ル次第デアリマス、將來法律ノ改正等ニ付キマシテハ、十分ニ此ノ點モ考慮致シタイト考ヘテ居リマス、第二ノ御尋ノ家庭防火群ヲ、之ヲ全國的ニ普及シテ、十分ニ活用スル考ハナイカト云フ御尋デアリマス、是ハ誠ニ御同感デアリマシテ、今後トモ此ノ一ツノ單位ヲ普及致シマシテ、十分ニ將來家庭ヲ中心ト致シマシタル防火ヲ實施スルコトニ致シタイト考ヘテ居リマス、尙此ノ點ニ付キマシテ此ノ防火群ヲ利用致シ、利用ト申シマス、此ノ防火群ノ使命ヲ更ニ擴充致シマシテ、國防ニ關スル國民的ノ組織トシテナル考ハナイカト云フ御尋デアリマスガ、此ノ點ニ付キマシテハ國防ト云フモノノガドノ範圍迄及ブモノデアアルカ、其ノ他ノ點モアリマス、又家庭防火群ト云フモノノ發達ノ徑路等モ考ヘナケレバナラスト存ジマス、從ヒマシテ十分慎重ニ考究スル考デアリマス、其次ニ御尋ノ點ハ警保局、計畫局ノ關係、其ノ他各省トノ關係ニ於テ、色々各省間ノ支障ガアル爲ニ、此ノ問題ガ進捗シテ居ラナイノデアナイカト云フ意味ノヤウニ伺ヒマシタノデアリマスガ、

時ニ或ハ此ノ種ノコトハ官廳ニハ有勝チデゴザイマス、併シナガラ防空ト云フヤウナ大キナ問題ニ付キマシテハ、必ズシモ割據致シタリ或ハ所謂今日能ク言ハレマスル「セクシヨナリズム」ト云フヤウナコトデ、御互ニ意見ヲ異ニシテ突合ツテ居ルト云フコトハ、是ハ絕對ニ避ケナケレバナリマセヌシ、今日サウ云フコトハ私共ハ此ノ問題ニ付キマシテハナイト考ヘテ居リマス、尙警防團ノコトニ付キマシテモ昨年以來研究サレテ居リマシタガ、本年ニ及ビマシテ勅令ヲ出シタコトニナリマス、是等ハ十分ニ活用シテ行クコトニ努力致シタイト考ヘテ居リマス、ソレカラ防空協會ノ設立ノ進行情況ニ付テ御尋デゴザイマス、是ハ淺田男爵モ色々御關係ヲ爲サツテ居リマス、内情ハ十分御承知ダラウト存ジマス、事實其ノ進行ハ少シク遅レテ居リマス、併シナガラ稍々其ノ目途モ付キマシタノデ、來年度ニ於キマシテハ補助金ノ十萬圓ヲ計上シテ居リマス、成ルベク速方ニ結成致シマシテ、十分此ノ機能ヲ活用シテ行キタイト考ヘテ居リマス、尙最後ニ將來戰ノ準備ニ對シテ、防空ノ責任者トシテノ抱負經驗ニ付テノ御尋デアリマス、是ハ改メテ申上ゲル迄モナク、私ハ將來ノ見透シト致シマシテ、此ノ重大ナル時局ニ於テ此ノ重大ナル責任ヲ負ツテ居ルノデアリマス、出來ルダケノ努力ト熱意ヲ以テ十分ノ準備ヲシテ、如何ナル事態ガ起リマシテモ、之ニ對處スルダケノコトヲ期シタイト、折角努力スル積リデ研究シテ居ル次第デゴザイマス、尙防空ノ全體ノ規模ニ對シテドノ位デアアルカト云フヤウナ御尋デゴザイマシタガ、是等ハ中央委員會ノ決議等ニ於キマシテ稍々其ノ全貌ハ御分リノコトト存ジマス、併シナガラ只今年ノ豫算ニ其ノ何分ノ一ガ出テ居ルト云フヤウナ點ニ付キマシテハ此ノ際御答

ハ差控ヘタイト存ジマス  
○議長(伯爵松平賴壽君) 今日ハ此ノ程度ニ於テ延會ヲ致シタイト存ジマス、御異議ガゴザイマセヌカ  
〔異議ナシト呼フ者アリ〕  
○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス  
○議長(伯爵松平賴壽君) 明後二十六日午前十時ヨリ開會致シマス、議事日程ハ彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會致シマス  
午前十一時四十五分散會

貴族院議事速記録第二號正誤

頁	段	行	誤	正
一六	三	一八	時久	持久
一八	一	一七	粉粹	粉碎